

主要科目の特長・科目ごとの目標等

○大学院人文科学研究科 ・仏教文化専攻

「日本文化論演習」

仏教はインドを源流とし、北伝仏教として中国、日本、また南伝仏教としてスリランカ、タイ、ビルマ等へ伝播した。そこで、本講義は、そうした地域に定着した仏教の諸相を特に土着思想との融合という立場で読み解き、そこから改めて日本文化を理解する方策を探る。仏教は日本に伝来してから土着の宗教と融合、習合、混交、軋轢を繰り返して今日に至る。本講座は日本文化を仏教的複合という側面から考察し、祖先崇拜、靈魂観、他界観等を考察し、思想だけではなく、現世利益等を含めた様々な局面から明らかにしていく。それにより日本文化を重層的に理解し、多角的に日本における、今日的課題である宗教的心情の枯渇、地域社会の絆の崩壊等から生じる様々な問題を解決することに資する人材を養成する。また仏教を通して比較文化の観点から国際的な視野を持つ人材を養成する。

「日本文化論」

この講義では、主に古文書をはじめとする歴史資料の講読を中心に据えて日本文化を学ぶ。日本史に関する資料、特に古典籍などには多種多様な題材を取り扱ったものがあり、それらには日本文化のエッセンスが詰まっている。そのため、これらを講読することにより日本人が伝えてきた文化を知るとともに、実際の歴史資料に触れることにより、日本史学に対する素養も身につけていくことを目的とする。

1. 歴史の変遷とともに変容する日本人の文化的活動を包括的にとらえる。
2. 日本文化にかかわる歴史資料を講読することにより、それらが書かれた時代の日本人の考え方に対する知識を深める。
3. 自治体史や資料集など活字化された史料読解能力を習得する。
4. 実物に触れることにより歴史資料の取り扱い方を習得する。

「日本文化実習」

仏教文化専攻の修士論文指導教員が、学外の資料館、寺院、博物館、図書館等において研究調査、資料蒐集、芸鑑賞等の実習を行う。実習内容としては写本の扱い方、資料の撮影、複写の仕方などの技術を学ぶ。こうした実習を通じて第一次資料を扱う専門的知識を修得する。

「日本文化史特殊講義」

現代につながる「中世文化」をテーマに、鎌倉時代に成立した史料を講読・解説しながら、中世文化を考察していく。具体的には、鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』、説話集『古今著聞集』、文芸作品『平家物語』『曾我物語』を通して、中世文化を見ていく。

中世文化に関する知識と研究方法を修得し、日本文化の歴史的背景を理解して、自らの興味・関心から専門的研究ができる能力を身に着ける。

「比較文化特殊講義」

この授業は、比較文化と説話文学研究の入門である。講義とアクティブラーニングを通じ、文学批評研究法ならびに、説話文学に関する専門知識を修得する。「説話」は文学の中でも特に仏教とのかかわりが深い分野である。『法華経』などでも重視される「譬喩」と「因縁」を考察した上、『日本霊異記』、『三宝絵』、『法華験記』、『往生極楽記』、『地藏菩薩霊験記』等、日本の代表的な仏教説話集へ進む。そして、『黄金伝説』といった中世エオローパの聖人伝に主眼を置きながら、仏教とキリスト教的説話の比較研究課題を紹介する。

1. 比較文化の方法に関する専門的知識を修得することができる。
2. 説話文学に関する専門的知識を修得することができる。
3. 仏教とキリスト教に主眼をおきながら、説話文学の比較研究に関する専門的知識を修得することを目標にしている。

「日本文化史」

本講義は、日本の宗教文化の特徴や歴史について考察するものである。

講義初頭に日本の宗教文化の特徴や歴史について概説。その後、神仏習合と本地垂迹説に関わる各種宗教絵画や高僧伝絵巻(国宝『一遍聖絵』など)を使用し、日本に於ける仏教と神道および既存信仰との密接な繋がりを紐解き、その理解を深めていく。

日本の信仰形態の変遷について時代を追って再検証し、その時代ごとの特徴を把握。時代ごとの解説に取り上げた信仰形態や対象物をより深く理解するため、その地域の空間的要素の把握から、信仰対象の偶像的表現方法として使用された絵画や彫刻などを、その分野や形態、特徴的技法などをふまえて、本質をより深く理解する。その上で、日本人の生活の中に溶け込んでいる宗教とは何なのかを再検証しつつ、自らまとめ上げる事を、到達目標とする。

「日本文化論特殊講義」

主に日本における禅仏教の展開について考察する。仏教・禅は、日本に伝来してから既存の民俗宗教と融合、混交、習合、軋轢を繰り返して今日の日本に定着し、日本文化の形成に関わって来た。よって、本講座は仏教・禅を教えのみならず文化現象として捉え、様々な角度から概観していく。それによって日本文化を理解し客観的に評価・批判する視座を提供する。

日本文化の中で、生まれ育ってきた学生は、仏教・禅の影響を受けている事象を客観的に把握し、自分自身をも見つめる能力を身に付けることができるようになる。また留学生は仏教・禅を入り口として日本文化を理解し、自国の文化との比較の視座を持つことができるようになる。

「仏教文化演習」

仏教文化を考察していくと、衣食住などの生活文化、仏教・神道を中心にした宗教文化、武道・芸道などの伝統的な文化など、実に様々な領域が存在する。こうした多彩な仏教文化の中から特に前半は仏典の思想が日本文化に影響を与えた事例について考察し、後半は日本の伝統芸能、とりわけ茶道・華道・能楽テーマを絞り主体的に取り組み、資料を深く読み込みながら仏教文化に対する深い知識を身につけるとともに自ら問題をみつけて自らの学修として深めていく。

仏教を中心にした宗教文化、武道・芸道などの伝統的な文化などについてより高度な学修と研究成果を発表するとともに他者の発表や意見についても積極的にコメント・レスポンスする能力を身につけていく。